

天声人語

「インナーピース」。直訳すれば「内側の平和」だが、語感としてはむしろ「平常心」に近いだろうか。テニスの大坂なおみ選手が口にした言葉である。心が穏やかなときに、いいプレーができるのだという▼「どうしたら、いつもそんな状態になれるのか、学ぼうとしているんです」。メルボルンで開かれていた全豪オープン女子シングルス。大坂選手は大会の途中では悔しさのあまり、ラケットを投げる場面があった。一方で、くるりと後ろを向いて気持ちを立て直す瞬間もあった▼心の成長と、技の成長。それが同時に進むさまを見せてくれた大会であった。全米オープンに続く制覇である。世界ランク1位にのぼりつめるという快挙もなしひげた▼きのうの夕方からの決勝戦では、テレビの前で大坂選手と一緒にこぶしを握りしめた方も多かっただろう。タイブレークを制した1セット目。集中力が途切れかけた2セット目。あわや涙かと思われた場面にも、はらはらした▼2014年には、世界ランク406位の少女だった。恵まれた体格。すば抜けた身体能力。そんな才能も、心を磨くことなしには十分に發揮できない。テニスでなくとも、スポーツでなくとも、通じる真理であろう▼「自分のメンタルは3歳児並み」。そう語っていた大坂選手が、4歳になつたとおどける場面も大会中にあつた。精神面で成人したと彼女が言うとき、一体どれだけ強くなっているのだろう。成長物語から、まだまだ目が離せない。

2019・1・27